

# 高円宮賜杯第46回全日本学童・第49回関東学童軟式野球大会 水郷予選大会 要綱

- 1 趣旨 本大会を通じて、少年少女の、スポーツを愛し、楽しみ、相互が協調・調和できる心と、総合的な運動による身体の健全な育成を図り、各チームの伸展に寄与すると共に、軟式野球の普及に努める。
- 2 主催 香取市スポーツ少年団
- 3 後援 香取市スポーツ協会
- 4 主観 特定非営利活動法人水郷軟式少年野球協会
- 5 期日 令和7年1月3日（祝月）、以降調整
- 6 集合・受付 選手の集合時刻は試合開始予定時刻の1時間前で良いです。  
ただし、試合開始予定時刻20分前のシートノックを考慮した準備でお願いします。
- 7 集合場所 与田浦運動広場
- 8 開会式 なし
- 9 試合開始 9:00（初日は、12:00）
- 10 試合実施球場 与田浦運動広場A
- 11 参加負担金 1チーム 6,000円  
(当日、受付で徴収する)
- 12 表彰 優勝 賞状・優勝杯  
準優勝 賞状
- 13 北総大会出場権 優勝 全日本学童（関東学童）軟式野球大会
- 14 審判 (1) 各チーム2名の審判員を帯同すること。  
(1名は球審経験者であること。)  
(2) 審判担当表により、シート番号の若いチームが球審及び2塁、他チームは1塁及び3塁を担当する。
- 15 記録 (1) 各チーム1名の記録員を帯同する。  
(2) 自チームの試合時、対戦相手チームと共同で得点及び試合経過を記録する。
- 16 諸注意 (1) 大会中の怪我等事故については、各チームで責任を負うものとする。  
(2) 試合の進行については、球場責任者及び球場責任審判員の指示に従うこと。
- 17 その他 止むを得ず不参加となる場合は、早急に事務局へ連絡すること。
- 18 大会事務局 特定非営利活動法人 水郷軟式少年野球協会  
事務局 鎌倉徹也  
tel: 090-1500-5534  
mail: [tkamakura555@gmail.com](mailto:tkamakura555@gmail.com)

## 【大会特別規則】

（出場資格及びチーム構成）  
1、大会の出場資格は、特定非営利活動法人千葉県少年野球連盟（以下「法人」という）の構成会員（以下「チーム」という）であり、最終日の試合まで参加できるチームでなければならない。

2、チーム構成は、成人者による代表者、監督、コーチ（2名以内）、スコアラーと選手（小学生）9名以上20名以内とし、認定有資格者が1名以上（今年度初登録は除く）含まれていなければならない。

3、出場チームは、この法人の定款、大会規則、大会特別規則を遵守すること。

参加する1チームの部員が8名以下（1・2年生を除く）のチーム同士の場合は連合を認める。

※連合は、選手数が少ないチーム同士数チームでも可能とする。連合チームの中の1チームの部員数が9名を超えて、連合していた他チームの選手数が満たない場合は、そのチームの選手登録は救済処置として認める。但し、地域理事の承認を得ることとする。

## （服装・用具）

1、同一チームの監督、コーチ、選手の服装は、スパイクを除いて同一のユニフォームを着用すること。但し、代表者、スコアラーの服装は、帽子に限り同一のものを着帽し、靴は運動靴を着用する。代表者、スコアラーは背番号のない同一ユニフォームでもよい。

2、背番号は、監督30番、コーチ28番・29番、主将10番、選手は0番から99番までとする。

3、スパイクシューズは金属製のものは使用できない。

4、ヘルメットは、「JSBB」マーク入りで両側にイヤーラップの付いたものを用意し、打者、次打者、走者、ランナーコーチ、ボールボーイ、ボールガール、バット引きの選手が着帽する。

5、捕手（控え捕手も含む。）は、全日本軟式野球連盟公認のSGマーク付き及びスロートガード付き（一体化も可）マスク、レガース、プロテクター、ヘルメット、ファールカップを使用すること。

6、使用球は、全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とし、金属バットは「JSBB」マーク入りの公認のものを使用する。

7、投手の守備時以外、選手は手袋及びリストバンドを使用することができる。

## （試合の集合・準備）

1、第1試合のチームは、試合開始予定時刻の1時間前までに試合会場に到着し、球場責任者による受付を終了すること。その後の試合のチームも同様とする。

2、試合中止の場合は、大会本部から連絡する。

雨天等判断が困難な場合は、定められた時間までに試合会場に到着し、大会本部の決定に従うこと。

試合実施の可否は、午前6時00分に決定する。（香取市予選大会）

3、打順表（メンバー表）は必ず所定の用紙を使用し、第1試合は試合開始時刻の40分前、第2試合以降は前の試合の3回終了時に提出する。提出は、監督と主将が4部持参し、

## 【大会競技規則】

- 1、この大会は、2025年度「公認野球規則」並びに全日本軟式野球連盟「競技者必携書」及び「大会特別規則」を適用する。

グランドルール等を確認すること。

- 4, ベンチは、抽選番号の若番が1塁側とし、先攻・後攻はメンバー表提出時にジャンケンにて決定する。
  - 5, 試合前のシートノックは後攻チームから開始し、時間は5分以内とする。但し、前試合の遅れや天候不安等が生じた場合は、球場責任者の判断で中止して試合を開始する。
  - 6, 第2試合以降のチームはグランド内に入ったらキャッチボール、トスバッティングをそれぞれ5分行いシートノックに備える。
  - 7, ユニフォーム着用指導者は、試合開始前の練習の補助及び控え捕手の代わり（試合中も含めて）を務めることができる。
  - 8, シートノックする監督又はコーチは安全を確認し、ボール渡しをする選手は、必ずヘルメットを着帽させなければならない。
- （試合時間等）
- 1, この大会の試合は、トーナメント戦とし6回均等回で勝敗を決することとするが、タイムゲームを採用する。1試合90分を超えた時は新しいイニングに入らずその時点の得点をもって勝敗を決する。同点の場合は直ちに特別延長戦に入る。決勝戦も同様とする。
  - 2, 6回終了時で同点の場合は、時間内であっても特別延長戦に入る。
  - 3, 得点差によるコールドゲームは3回均等回終了後10点差以上及び4回以降均等回終了後7点差以上のとき適用する。（香取市予選大会）
  - 4, 日没、降雨によるコールドゲームの適用は、4回終了後適用する。4回終了前については再試合とし、後日の第1試合前に行う。日没、降雨での試合中止の判断は、球場責任者、球場責任審判員、球審・墨審が協議して決定する。
  - 5, 監督が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。特別延長戦に入った場合は、1イニングに付き各1回以内とする。捕手又は内野手が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とし、特別延長戦に入った場合は、1イニングに付き各1回以内とする。野手（捕手も含む）が投手の所へ行った場合、そこへ監督が行けば双方1回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は監督のみ回数には含まない。
  - 6, 攻撃側のタイムは1試合に3回以内とする。特別延長戦に入った場合は1イニングに各1回とする。
  - 7, 投手の投球数は、1日70球（4年生以下の投手は60球）とする。但し、打撃中に70球（4年生以下は、60球）に達した場合は、その打者の打撃が完了するまでとする。  
また、大会日程の都合上、1日2試合を行うことも想定しているため、その場合には、投手の投球制限については、1試合4イニング（特別延長も含めて12アウト・4年生以下は1試合3イニング9アウト）とすることもある。

（試合）

- 1, 臨時代走（コーティシーランナー）は必要に応じて球審が認める。この代走は打順の最も遠い投手、捕手を除いた選手を充てる。
- 2, 審判員の判定への抗議はルールの適用誤りの時のみ監督、又は当該選手がすることができる。
- 3, 選手交代は、必ず監督が球審に告げる。
- 4, メガホンはベンチに1個のみ持ち込むことができ、使用は

監督のみとする。

- 5, 試合中、ベンチ入りの代表者、監督、コーチ、スコアラーは審判員の許可なしにグランド外に出ることはできない。
  - 6, 試合中、ベンチ入りを許されている者は、電子機器等（携帯電話・パソコン・ビデオカメラ・カメラ・携帯マイク等）を持ち込むことができない。
  - 7, 各チームの応援団及びベンチは、相手チームへの野次等を発することが出来ない。執拗な抗議や悪質な野次に対しては、大会本部、球場責任者、責任審判員、当該審判員から断固たる処置を命じる。
- （特別延長戦）
- 1, 特別延長戦は、前回の継続打者が先頭打者となり、走者は、前回の最終打者が1塁走者、2塁、3塁の走者は、順次前の打者とし、1死満塁で1イニング行い、得点の多いチームを勝者とする。1イニングで勝敗の決定しない場合は更にもう1イニング行う。それでも勝敗が決定しない場合は、抽選とする。
  - 2, 特別延長戦は、選手の交代等通常の試合が継続して進んでいることになるので、既に交代し退いた選手は再度出場できない。

#### 【大会グランド規則】

- 1 大会球場がファールラインからスタンド、バックネット（柵まで）が少年野球区画基準の12mに満たない球場で、送球がスタンドまたはベンチに入った場合、球場のフェンスを越えるか・くぐるか・抜けた場合、バックストップの上部継ぎ目から上方の斜めに張ってある金網に乗った場合、観衆を保護している金網に挟まって止まった場合、特別に設けたボールデットゾーンに入った場合の5項目については、ボールデットとし、その送球が打球処理直後の内野手の最初のプレイに基づく悪送球であった場合は、投手の投球当時の各走者（打者走者も含む）の位置、その他の場合は、悪送球が野手の手を離れた時の各走者（打者走者も含む）の位置を基準として1個の塁しか与えないものとする。

#### \* 付記

大会グランド規則の1は、正規の送球では各走者（打者走者も含む）には2個の塁が与えられる規則となっている。但し、狭い球場等ではこのような悪送球がなされた場合には、守備側に対して一方的に不利になることから規定するものである。この場合、野手が球に触れたかどうかには関係なく適用する。[公認野球規則7.05(g)、アマチュア野球内規10適用]

- 2 試合終了後に両チームでグランド整備を行うこと。